## 本陣跡

宗興寺から東へ進むと滝の川に出ます。

この川沿いを海側へ行くと第一京浜に突きあたります。この付近より東京寄りは、旧東海道が拡幅され第一京浜となっています。その上には現在、高速道路が走っています。

宿場町時代には、滝の川を挟んで江戸側に神奈川(石井)本陣、その反対側に青木(鈴木)本陣が置かれていました。

本陣というのは、大名や公家などが宿泊や休息をする幕府公認の宿です。

神奈川本陣については、『金川砂子』や本陣を勤めた石井家に伝わる資料があり、その外観や間取りなどを知ることができます。

「金川砂子　青木町御本陣」国文学研究資料館所蔵

## 高札場

左図の『金川砂子』には、滝ノ橋のたもとに、高札場が描かれています。

高札場は、幕府の法度や掟などを庶民に徹底させるために設けられた施設です。

宿場の施設としては重要なものでしたが、明治に入り情報伝達の手段が整うにつれて、やがて姿を消してしまいました。

当時の高札場は、神奈川警察署西側付近にありました。上の写真は、資料をもとに神奈川地区センターの前に復原したものです。その規模はおおよそ、間口約五メートル、高さ三・五メートル、奥行一・五メートルと大きなものでした。

「金川砂子」国文学研究資料館所蔵

## 滝の川と河童

滝の川は、権現山から流れ出る水が、滝となって落ちていたので、滝の川といわれるようになったとの説があります。

この川には、「河童のくれたされこうべ」という伝説があります。

昔々、滝の川には河童が住んでいました。旅人を困らせていると聞いた一人の侍が、見事にこの河童を捕まえました。

その河童が泣き泣きいうことには、……「ある年一匹のうわばみが現われて、亭主は殺されてしまいました。それからというものは、二人の子どもを養うために悪いこととは知りながら、ついついご迷惑をかけました。以後いっさい悪いことはいたしません。約束のしるしに、大事な亭主の首をさしあげます。どうぞお許しください……」

哀れに思った侍は許してやりました。

その夜、河童は約束通り首を届け、以後宿場は静かになったそうです。

## 浄瀧寺

下の写真は、滝の川のほとりにある浄瀧寺です。

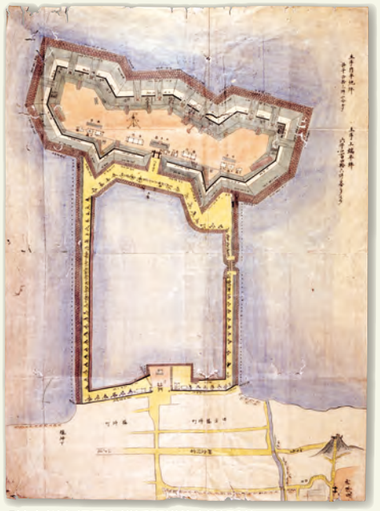
開港時にはイギリス領事館に充てられました。本堂を始めとして諸所にペンキが塗られたといわれています。

横浜大空襲で焼失してしまいましたが、当時、イギリス領事が手植した「多行松」と呼ばれる松があり、横浜十名木とされていました。

## 神奈川台場跡

旧街道をはずれ、滝の川に沿って海に向かい、JR貨物線に突きあたる辺りが、神奈川台場跡です。開港当時大砲が置かれ、港を警備していました。

江戸幕府は伊予松山藩に建設を命じ、勝海舟の設計で海防砲台を構築しました。当時の台場は面積約八千坪の海に突き出た扇形で、約七万両の費用と一年の歳月を費やして万延元年(一八六〇)に完成しました。


「神奈川台場図」横浜開港資料館所蔵

明治三十二年(一八九九)に廃止されるまで礼砲用として使われましたが、埋め立てが進み、神奈川台場公園では台場の歴史を、星野町公園では、石垣の一部を見ることができます。

## 慶運寺

滝の川に沿って山側に進むと、慶運寺前に出ます。開港当時、この寺はフランス領事館に充てられました。

浦島丘にあった観福寿寺が慶応年間の大火で焼失したため、浦島伝説にかかわる記念物がこの寺にもたらされました。それ以来、慶運寺は「浦島寺」とも呼ばれています。浦島太郎が竜宮城に行った時、乙姫様からいただいたという菩薩像などが伝わっている、といわれています。

## 成仏寺

慶運寺のすぐ近くに成仏寺があります。開港当時、成仏寺はアメリカ人宣教師の宿舎に充てられました。

ヘボンは本堂に、ブラウンは庫裡に住んだといわれています。ヘボンが友人に宛てた手紙の中に、このことが書かれています。

それによると、広い本堂を襖で仕切り、大小八つばかりの部屋をつくったとあります。その結果、ずいぶん住みよくなった、広い庭も美しく気に入っている、と書かれています。

また、ブラウンは聖書や賛美歌の翻訳に尽力した人です。

## 神奈川地区センター

成仏寺から東へ向かうと、ほど近い場所に神奈川地区センターがあります。

「神奈川宿歴史の道」のルートは、この建物の前を通り、さらに東の金蔵院へと続いています。

地区センター前の広場には、かつて滝ノ橋のたもとにあった「高札場」が、往時をしのんで復原されています。

また、この広場の床面には、「神奈川宿歴史の道」のシンボルマークとなった「青海波」がデザインされています。